

応用生物科学科を修了・卒業する先輩たちへのインタビュー

応用生物科学科の良さや入学を志望する高校生・受験生に向けたメッセージとして、2025年度に修了／卒業（予定）の大学院生と学部4年次の先輩にインタビューした内容をまとめています。

インタビューの内容

大学院生（修士）：

- >（就職予定者）企業名・職種
- > 本学・本学科に入学した理由
- > 本研究科で得たこと・印象に残ったこと
（研究について；研究室、学会 など研究活動に関わること）
- > 上記企業への志望理由
- > 受験生へのメッセージ

学部生：

- >（就職予定者）企業名・職種 および（進学予定者）研究室名
- > 本学・本学科に入学した理由
- > 上記企業あるいは研究室への志望理由
- > 本学科で得たこと・印象に残ったこと
（授業・学生実験・卒論/修論研究・サークル活動等）
- > 応用生物科学科の特徴的な点
- > 受験生へのメッセージ

掲載者リスト

（就職予定）

博士前期課程2年次 伊勢山 大智 就職先・職種：日本ジェネリック株式会社
・品質管理職

博士前期過程2年次 渡辺 舞咲 就職先・職種：大和製罐株式会社
・技術系総合職

学部4年次 五十嵐 芽依 就職先・職種：ミヨシ油脂株式会社・製造職

学部4年次 櫻田 悠翔 就職先・職種：リコージャパン・営業職

学部4年次 櫻庭 彩佳 就職先・職種：株式会社シュクレイ・製造職

（進学予定）

学部4年次 小石 伶佳 進学先・研究室 秋田県立大学大学院生物資源科学研究科
・分子腫瘍学研究室

学部4年次 小菅 心花 進学先・研究室 秋田県立大学大学院生物資源科学研究科
・醸造微生物学研究室

氏名：伊勢山 大智

生物資源科学部 応用生物科学科 2023 年度卒業／大学院生物資源科学研究科
生物資源科学専攻 博士前期課程 2025 年度修了予定

就職（予定）先・職種：日本ジェネリック株式会社・品質管理職

高校時代、生物の授業で生命の仕組みに興味を持ち、生物資源科学部の応用生物科学科に進学しました。植物、動物、微生物を対象とした実験や講義を通じて、微生物のタンパク質や遺伝子機能に関心を深めました。これらの研究をしているキノコ研究室でタンパク質の動態観察や遺伝子破壊実験に取り組みました。学部での研究をさらに発展させたいと考え、修士課程に進学しました。大学生活で印象に残っていることは、院生になって初めて行った学会発表です。専門家からの質問やコメントを通じて研究の弱点や新しい視点を得ることができ、その後の研究に活かすことが出来ました。

就職先は自分の専攻と分野が異なりますが、人々の健康に貢献したいという思いと、地元で働きたいという希望から、日本ジェネリック株式会社という医薬品会社を選びました。品質管理職として、正確な試験や分析を行い、医薬品の品質維持に努めたいと考えています。生物に興味があり、実験をたくさんしてみたい方には、この学科をおすすめします。幅広い生物分野を学び、専門性を身につけることができます。

氏名：渡辺 舞咲

生物資源科学部 応用生物科学科 2023 年度卒業／大学院生物資源科学研究科
生物資源科学専攻 博士前期課程 2025 年度修了予定

就職（予定）先・職種：大和製罐株式会社・技術系総合職

私は高校2年生のとき、生物の授業がとてもおもしろいと感じたことがきっかけで、生物についてもっと深く学びたいと思うようになりました。特に、生物について詳しく学習できて、その特性を活かした知識や技術を学べる点に魅力を感じ、秋田県立大学への進路を決めました。大学では、研究室に配属されてから、自分が明らかにしたい現象に対してどのような実験方法がよいのかを自分で調べ、先生と何度も話し合いながら研究を進めました。試行錯誤を重ねる中で、新しい発見に出会えたことは今でも強く印象に残っています。

将来は多くの人を使う製品の開発に関わりたいと考え、大和製罐株式会社への就職を決めました。大学で扱ってきた分析機器の知識や技術を活かして、これまでにない容器の開発に挑戦したいと思っています。進路選択は迷うこともありますが、自分で選んだ道を良いものにできるのは自分自身です。失敗を恐れず、さまざまなことに挑戦してください。秋田県立大学は、そんな挑戦を応援してくれる大学です。

氏名：五十嵐芽依

生物資源科学部 応用生物科学科 2025年度卒業予定

就職（予定）先・職種： ミヨシ油脂株式会社・製造職

私が生物資源科学部に興味を持ったのは高校3年生の頃で、授業で食品の栄養や素材利用について学んだことがきっかけでした。大学では食品についてより深く学びたいと思い、食品分野の科目が充実していた応用生物科学科を選びました。高校では生物や化学を履修していなかったため、初めは大学の講義についていくのがとても大変でしたが、周りの友人に支えられ、少しずつ理解できることが増えていった経験は大きな自信につながりました。

卒業研究では食用油の酸化について研究を行い、その経験から、食品用・工業用油脂を扱う企業であるミヨシ油脂株式会社を就職先を選びました。大学で学んだ知識を生かせると感じたことが入社を決める際の大きなポイントになりました。入社後は周囲とのコミュニケーションを大切に、早く仕事を身につけて、より良い商品づくりに貢献したいと考えています。

大学の授業についていけるか不安な高校生の方もいると思いますが、先生方や友人も優しい人が多く、必ず慣れていくと思います。ぜひ自分の興味を探求し、大学生活を楽しんでください。

氏名：櫻田 悠翔

生物資源科学部 応用生物科学科 2025年度卒業予定

就職（予定）先・職種： リコージャパン・営業職

高校三年生の春ごろ、県内での進学を考えていた際に高校の先生から紹介してもらったことをきっかけに、生物資源科学部に興味を持ちました。もともと生物と化学の授業が好きで、応用生物科学科ではそれらの知識を生かしながら、動物・植物・微生物・食品など幅広い分野を専門的に学べる点に魅力を感じ、進学を決めました。大学生活では研究や学生実験も印象深い経験でしたが、研究室に留学生が来たことが特に心に残っています。短い期間ではありましたが、海外の方と交流する貴重な機会となりました。

就職にあたっては、地元で働き、地域に貢献することを重視しました。就職後は、社会人としての基礎力を身につけ、相手の話を丁寧に聞きながら課題を整理し、信頼される社会人を目指します。

進路に悩むこともあると思いますが、私自身も高校生のころは進路に迷っていました。今は迷っていても大丈夫なので、少しでも「面白そう」と感じたことを大切に、前向きに挑戦してほしいと思います。

氏名：櫻庭 彩佳

生物資源科学部 応用生物科学科 2025年度卒業予定

就職（予定）先・職種：株式会社シュクレイ・製造職

私は小学生の頃から料理に興味を持ち、中学生、高校生になるにつれて、次第に食に関わるさまざまな分野に関心を広げてきました。そんな中、地元である秋田に食分野について学べる大学があること、さらに高校三年生の時に高大連携授業に参加し、食だけでなく植物・動物・微生物など、幅広い分野を学ぶことを知り、応用生物科学科を志望しました。学生実験では、お酒造りや大腸菌を利用した実験、カエルの解剖など非常に多様な分野に触れることができ、貴重な知識と技術を身につけることができたと感じています。

私は食への関心に加え、旅行が好きで、特に家族や友人へのお土産を選ぶ時間を大切にしています。就職先はお土産を製造している会社であり、「食」と「旅行」という二つの好きなことを仕事にできるのはこの会社しかないと感じ、就職を決めました。将来は、お客様はもちろん、そのお土産を受け取った方にも喜んでいただける商品を作りたいと考えています。

応用生物科学科は、幅広い分野の知識と技術を身につけることができ、自分の興味を見つけるだけでなく、深く追究することができます。そのため、将来の選択肢を広げることのできる学科であると考えています。

氏名：小石 伶佳

進学先・研究室 秋田県立大学大学院生物資源科学研究科・分子腫瘍学研究室

高校3年生の頃、生物系の進学先として生物資源科学部を知り、興味を持ったことが大学進学のかっけでした。当時、秋田県立大学と他大学との2つの候補で迷っていましたが、生物担当の先生が研究費や教員一人当たりの学生数の観点から、秋田県立大学を勧めてくださいました。それを機に自分でも調べてみたところ、特待生奨学金制度の存在を知り、秋田県立大学への進学を決めました。

応用生物科学科では、動物・植物・微生物・食品・醸造といった幅広い分野に触れることができます。生命科学への漠然とした関心はあるけれど、分野を一つに絞れない、という方に最適です。

私が本学の大学院進学を希望した理由は、卒業研究を通して癌の浸潤転移に強い関心を持ったこと、研究室の雰囲気が自分に合っていたことが挙げられます。大学院進学後は、ヒト腎癌細胞株の運動抑制機序を分子レベルで検討する予定です。

最後になりますが、受験生の皆さん、過度な焦りは禁物です。自分に合ったやり方が確立できているのならば、無理に変える必要はありません。今できることを丁寧に積み重ねることが、確かな結果につながります。二度と来ない“今”を全力で楽しんでください。

氏名：小菅 心花

進学先・研究室 秋田県立大学大学院生物資源科学研究科・醸造微生物学研究室

私が生命科学に興味を持ったのは、高校で科学部に所属し、「カビ」をテーマに研究を行ったことがきっかけです。顕微鏡で観察したカビは、見た目はとてもシンプルでありながら、確かに生きており、その姿に大きな感動を覚えました。

大学入学後は、微生物が食品の発酵や医薬品の生産など、私たちの身近な生活を支えている点に魅力を感じ、応用生物科学科を選びました。

現在は醸造微生物学研究室に所属し、酵母の高糖濃度ストレスをテーマに卒業研究に取り組んでいます。自ら実験を計画し、失敗を重ねながら答えを探す研究は大変ですが、とても楽しくやりがいがあります。研究内容を理解するために勉強する日々ですが、酵母について学ぶこと自体が大きな楽しみです。進学後も新たな発見を通して社会に貢献できるよう努力していきたいと考えています。

進路に迷う時間は決して無駄ではありません。ぜひ自分の興味と向き合い、納得のいく道を選んでください。